

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 8 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21H03683

研究課題名(和文) 中東の非国家武装主体の越境的活動に関する比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study on Trans Border Activities of Non-state Armed Actors in the Middle East

研究代表者

高岡 豊 (Takaoka, Yutaka)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員

研究者番号：10638711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,500,000円

研究成果の概要(和文)：非国家武装主体の活動の実態を解明するため、研究対象国(イラン、イラク、シリア、レバノン)の国会議員名簿を整備し、イランとシリアについては名簿をオンラインで公開した。イランはレバノン、シリア、イラクの各々で地域の実情や現場で求められる任務に応じて様々な「親イラン民兵」を育成した。これらの民兵の多くは、シリア紛争に参加した。本研究の成果としてシリア紛争での民兵の活動の実態を解明した著作『シリア紛争と民兵』(日本語)を刊行し、非国家武装主体の動員、彼らによる統治、関係各国による民兵の統制に試みについての研究成果を発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イランがアラブ諸国で「親イラン民兵」を育成することは宗派紛争の中での振る舞いと考えられがちだったが、本研究は非国家武装主体の活動地域の状況を「縦糸」、非国家武装主体についてのイランの対外政策を「横糸」ととらえて分析した。これにより、「親イラン民兵」が、様々な宗教・宗派集団、部族のような地縁血縁集団、政治・経済集団などからも動員されていることが明らかになった。また、個々の民兵の行動も自らの利害関係、活動地の政府との関係、イランを含む関係国の政策によって行動が規定されていることが判明した。本研究により、アラブ諸国での非国家武装主体を分析する新たな視点と枠組みが提起できた。

研究成果の概要(英文)：In order to clarify the reality of the activities of non-state armed actors, we have compiled a list of members of the parliaments of the research target countries (Iran, Iraq, Syria, and Lebanon), and have made the lists of Iran and Syria available online. Iran has cultivated various "pro-Iranian militias" in Lebanon, Syria, and Iraq, depending on the local circumstances and the tasks required on the ground. Many of these militias participated in the Syrian conflict. As a result of this research, I have published a book titled "Syrian Conflict and Militias" (Japanese) that elucidates the actual situation of militia activities in the Syrian conflict and aims to improve the mobilization of non-state armed actors, their governance, and the control of militias by related countries. We disseminated the research results regarding the experiment.

研究分野：地域研究

キーワード：非国家武装主体 シリア イラン レバノン イラク 中東 部族

1. 研究開始当初の背景

民兵や犯罪集団を含む非国家武装主体は、近年の紛争の重要な当事者となっている。その一部は、武装闘争のみならず、紛争中・紛争後の和解や国家・社会の再建の過程で政治に参加し、政治主体としての地位を確立している。非国家武装主体については、rebel governance、limited statehood などの観点からその役割を見直す研究が進んでいるが、近年では中東においてもレバノン、シリア、イラクなどで非国家武装主体が重要な役割を果たし、個々の国・紛争に焦点を当てた研究の対象となっている。

中東の非国家武装主体の実態や行動様式については、伝統的に宗教・宗派、民族的な帰属が決定要因とみなされ、また、各国の紛争に介入し様々な非国家武装主体を育成・援助しているイランの意図や政策が注目されてきた。しかし、本研究が対象とするレバノン、シリア、イラクにおいてもその形成や行動様式においてイランの影響を強く受けて越境的に活動する非国家武装主体があるのは事実だが、政治・社会的背景が異なる諸国における非国家武装主体の実態をこれらの要因によって画一的に説明できるとは限らない。そのため、本研究では対象とする各国における非国家武装主体の分析を「縦系」とし、それらの行動様式を比較し個々の非国家武装主体の越境的活動に影響を及ぼすイランの対外政策を分析することを「横系」として各国の非国家武装主体の固有性と共通性の両方を解明していくべきと考える。

2. 研究の目的

本研究は、中東諸国に現れた多数の非国家武装主体の行動様式を、各国の事例の比較検討と、同地域における非国家武装主体による越境的活動に多大な影響を与えているイランの対外政策の分析という観点から解明することを目的とする。上記のように、各国の政治・社会・紛争における非国家武装主体の研究は近年大きな発展を見せているが、本研究には中東の事例を確固たる調査と資料に基づいて分析し、紛争研究・非国家武装主体についての研究に貢献するという意義がある。

中東諸国における紛争の中でも、シリア紛争においてはシリア国内に多数の民兵や武装勢力が現れた上、レバノンのヒズブッラーなどの対イスラエル抵抗運動諸派、イラクの人民動員隊、アフガニスタンなどから動員された民兵、世界各地から流入したイスラーム過激派諸派のように、シリア国外の非国家武装主体が多数当事者となった。これらの非国家武装主体は、紛争の原因や展開、各当事者の言動が宗派主義的に解釈されることに伴い、「スンナ派對シーア派」との単調な枠組みの中で分析されがちである。しかしながら、実際にはシリア国内の非国家武装主体には、宗派的にスンナ派に帰属していても政府に与した民兵（政党や部族が動員したものなど）のように、宗教・宗派的帰属に沿った説明の枠に収まらない主体も多い。本研究は、非国家武装主体の行動様式は紛争当事国内での諸当事者間の関係、紛争当事国の外部の国際関係と、外部の当事者による介入の在り方という要因によって説明すべきであるとの立場に立ち、宗教・宗派的、民族的帰属を決定要因と見なしがちであった従来の研究とは異なる視角で研究を進める。

3. 研究の方法

本研究では、現地語資料（アラビア語、ペルシャ語など）の解析を主とする地域研究の手法に沿って非国家武装主体の実態についての調査を行う。レバノン、シリア、イラクでは、各々の政治状況や紛争の展開の中で非国家武装主体が政府や議会に進出し、立場を確立している。そこで本研究では、政府・議会・政党を中心に同国の要人名簿を整備し、それを基に非国家主体の各種団体が政治力の行使や内外での正統性の確立にどのような方針で臨んでいるのかを分析する。

イランは、紛争当事者から「イラン民兵」などと呼ばれる非国家武装主体を育成することを通じてレバノン、シリア、イラクなどの政治と紛争に関与・干渉していると考えられている。シリアにおいては、レバノンやイラクの非国家武装主体が戦闘に参加した事例がある。その一方で、各国の政治・社会状況は各々異なっており、非国家武装主体の育成などに際しての手法や経路は多様である。本研究では、各国に対するイランの政策、非国家武装主体育成の手法と経路や実施機関を、各国研究とイランの対外政策の両面から調査・分析する。

情報の収集は公開情報を基軸に行う。本研究では、各国の政府・議会・通信社などが公開する閣僚や議員の名簿を基に要人名簿の整理を進めるが、中東においては公的機関による情報の発信の量・質・時宜が研究上の資料として不十分であり、本研究の題材についての報道機関による発信・調査活動も低下している。一方、近年は紛争の当事者となる組織や個人が SNS を通じて盛んに情報を発信するようになっており、これらの情報を網羅的に把握することで一次情報として公開されている情報を取得する。また、一次情報の把握の段階での過不足を補うため、提携機関（セントアンドリュース大学シリア研究センター、シリア世論調査研究センター（SOCPS）、シリア世論調査センター（SPO）、レバノンで戦略研究や社会・経済問題などの研究を行う研究と資料収集のための諮問センター、イラクのバグダード大学、イラン外務省附属シンクタンクのイラン政治・国際問題研究所（IPIS）など）や海外の研究者とのネットワークを通じて得た情報・知見を活用する。

4. 研究成果

本研究を通じ、イランは地域での競合者であるアメリカやイスラエルに対する劣勢を補い、競合者を自国領から遠い場所で抑止するため、イラク、シリア、レバノンなどに「親イラン民兵」を配しているが、「親イラン民兵」の内情は彼らが活動する国毎に異なり、様々な宗教・宗派集団、部族のような地縁血縁集団などからも動員していることが明らかになった。また、これらの民兵が活動する諸国は、イスラエルへの抵抗、国内での紛争、イスラーム過激派対策などでイランからの支援を必要としていたが、イランは各国の内部に複数の「親イラン民兵」を動員し、それらが必要以上に成長して自立しないよう、個別に従属させることを好む政策をとっていることも明らかになった。

(1) 研究対象国(イラン、イラク、シリア、レバノン)の国会議員、閣僚などの要人名簿を整備し、以下についてはオンラインで公開した。

* イラン第 11 期国会議員選挙(2020 年)データベース(https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2022/03/islamic_parliament_2020.pdf)

* シリアの議会の部族出身議員名簿(https://cmeps-j.net/cmeps-j-reports/cmeps-j_report_66)

* イラン第 13 期大統領選挙(2021 年): 閣僚データベース(https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2023/03/cmeps-j_report_70.pdf)

(2) 本研究事業について、査読ありのものだけでも、以下の論考を発表した。

* 末近浩太 2022 「民主化による安全保障とイスラーム」『世界思想』49, pp32-36.

* 千坂知世・山尾大・末近浩太 2022 「イスラーム革命防衛隊の海外派兵をめぐるイラン国民の認識 2021 年サーベイ実験の結果から」『アジア経済』64, pp2-26.

* 末近浩太 2022 「レバノン・ヒズブッラーの「二正面抵抗」のフレーミング: ハサン・ナスルッラー書記長演説の計量テキスト分析」『日本中東学会年報』37-II, pp31-59.

* Suechika, Kota 2021 “Hezbollah’s Framing of the Two-front Resistance: A Quantitative Analysis of Hasan Nasrallah’s Speeches,” Middle East Studies Association.

* 末近浩太・山尾大 2023 「紛争後の非リベラルな国家建設を市民はどのように認識するのか 2021 年シリア世論調査結果の分析から」『比較政治学会年報』, pp53-80.

* Suechika, Kota 2023 “Measuring ‘state-diffusion’ in post-conflict authoritarian Syria evidence from the 2021 public opinion survey.” Mediterranean Politics, pp1-22.

* 高岡豊 2023 「紛争後のシリアにおける部族出身議員輩出のメカニズム」『国際安全保障』, pp62-79.

(3) 本研究事業の成果として、以下の学会報告を行った。

* 山尾大・末近浩太 2022 「アラブの春」以降の対イラン認識の変遷を探る アラブ諸国主要紙の計量テキスト分析から」, 国際政治学会.

* Suechika, Kota and Dai Yamao 2023 “How Do Syrians Perceive Roles of the Resurgent Assad Regime in the Post-Conflict Period?: An Analysis of the 2021 Public Opinion Survey,” International Conference “Humanitarian Narratives and Interventions from the Contemporary Middle East.

* Suechika, Kota 2021 “Israeli Zionists or Syrian Takfiris: A Quantitative Analysis of Hezbollah’s Framing of Resistance,” IPSA 26th World Congress of Political Science

* Suechika, Kota 2021 “Hezbollah’s Framing of Resistance: A Quantitative Text Analysis of Hasan Nasrallah’s Speeches, 2005-18,” The KAMES-AFMA International Conference.

* 青木健太 2023 「イランの対外政策と非国家主体 アフガニスタン人の動員を事例に」, 日本中東学会第 39 回年次大会特別研究集会.

* 青木健太 2023 「ハイブリッドな国家建設の理念的妥当性 アフガニスタンを事例に」, 国際安全保障学会.

* 山尾大 2023 「英雄か脅威か 計量テキスト分析からみるイラクの世論と街頭行動の拡大」, 比較政治学会.

* Yamao Dai 2023 “Heroes stirring up political unrest: Measuring evaluation of former-militia (PMU) by a list experiment in Iraq,” International Political Science Association, IPSA.

* 山尾大 2023 「紛争後社会の選挙動員の効果をはかる イラクにおけるサーベイ実験から」, 日本政治学会.

* Suechika Kota 2023 “Political Communication Strategy in Consociational Democracy: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah’s al-Manar,” OBIC Conference 2023.

* Suechika Kota 2023 “Political Communication Strategy of Lebanese Hezbollah under Political Crises: A Quantitative Text Analysis of al-Manar Channel,” The 25th

Mediterranean Studies Association Annual International Congress.

* Suechika Kota 2023 “Syrians’ Perception of the Post-Conflict Reconstruction under Assad’s Authoritarian Rules: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey,” BRISMES Annual Conference 2023.

* Suechika Kota 2023 “Contested Statehood in Post-conflict Authoritarian Syria: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey,” The IPSA 27th World Congress of Political Science.

* Suechika Kota 2023 “Lebanese Hezbollah’s Political Communication Strategy in Consociational Democracy, 2016-2020: A Quantitative Text Analysis of Al-Manar,” The 8th International Forum on Asia and the Middle East.

(4) 本研究事業の成果として、以下の著作を刊行した。

* 高岡豊 2023 『「テロとの戦い」との闘い あるいはイスラーム過激派の変貌』, 東京外国語大学出版会, 全 227 頁.

2001 年からアメリカが中心となって進めた「テロとの戦い」にその対象とされたイスラーム過激派がいかに臨んだのかを明らかにした。その中で、本研究の対象国であるシリア、イラクを中心に活動した非国家武装主体として、イスラーム過激派諸派、イラクとシリアの政府などが動員した民兵の活動を取り上げた。

* 高岡豊 2024 『シリア紛争と民兵』, 晃洋書房, 全 177 頁.

シリア紛争に関与した非国家主体の、動員、統治について一次資料を基に解明するとともに、シリア政府による親政府民兵動員と民兵を動員した社会集団の政治参加のメカニズムを明らかにした。また、様々な民兵について、動員に関与したシリア内外の主体の方針や利害関係を分析する中で、シリア紛争への政策を中心にイランによる「親イラン民兵」育成の目的と手法を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 544
2. 論文標題 シリアと大国 繰り返される「シリアを巡る闘い」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 545
2. 論文標題 トルコのシリア侵略の「尖兵」としてのクルド民族主義組織PYD	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 706
2. 論文標題 米国の軍事介入とイラク国家建設の蹉跎	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 24-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 545
2. 論文標題 「シーア派割れ」と変わらない政治構造 第5回イラク議会選挙後の新政権形成をめぐる闘争	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 101-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千坂知世・山尾大・末近浩太	4. 巻 64
2. 論文標題 イスラーム革命防衛隊の海外派兵をめぐるイラン国民の認識 2021年サーベイ実験の結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.64.1_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木健太	4. 巻 546
2. 論文標題 イラン・ロシア関係の展開 イランの「ルック・イースト」政策に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 37-11
2. 論文標題 レバノン・ヒズブッラーの「二正面抵抗」のフレーミング：ハサン・ナスルッラー書記長演説の計量テキスト分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本中東学会年報	6. 最初と最後の頁 31-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24498/ajames.37.2_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 49
2. 論文標題 民主化による安全保障とイスラーム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界思想	6. 最初と最後の頁 32-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木健太	4. 巻 49
2. 論文標題 米国の対中東外交とトランプ政権 - 軍事的撤退と対イラン強硬政策に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57292/kokusai anzenhosho.49.2_59	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 94
2. 論文標題 シリアにおける越境 (クロスボーダー) 人道支援: 人道性と政治性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 165-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木健太	4. 巻 548
2. 論文標題 イラン・サウジアラビア関係正常化合意の背景と展望 イランの戦略的視座と想定され得る狙い	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木健太	4. 巻 549
2. 論文標題 イランの外交政策におけるグローバル・サウス 国際秩序の変容と多角化するイラン外交	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 16-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木健太	4. 巻 81
2. 論文標題 多角的外交を進めるイラン 中国接近の意図	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 100-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太・山尾大	4. 巻 25
2. 論文標題 紛争後の非リベラルな国家建設を市民はどのように認識するのか 2021年シリア世論調査結果の分析から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 53-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suechika Kota	4. 巻 -
2. 論文標題 Measuring 'state-diffusion' in post-conflict authoritarian Syria evidence from the 2021 public opinion survey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Mediterranean Politics	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13629395.2023.2291957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 51-2
2. 論文標題 紛争後のシリアにおける部族出身議員輩出のメカニズム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 62-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 山尾大・末近浩太
2. 発表標題 「アラブの春」以降の対イラン認識の変遷を探る アラブ諸国主要紙の計量テキスト分析から
3. 学会等名 国際政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Suechika, Kota and Dai Yamao
2. 発表標題 How Do Syrians Perceive Roles of the Resurgent Assad Regime in the Post-Conflict Period?: An Analysis of the 2021 Public Opinion Survey
3. 学会等名 International Conference “Humanitarian Narratives and Interventions from the Contemporary Middle East (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suechika, Kota
2. 発表標題 Israeli Zionists or Syrian Takfiris: A Quantitative Analysis of Hezbollah 's Framing of Resistance
3. 学会等名 IPSA 26th World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Suechika, Kota
2. 発表標題 Hezbollah 's Framing of Resistance: A Quantitative Text Analysis of Hasan Nasrallah's Speeches, 2005-18
3. 学会等名 The KAMES-AFMA International Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Suechika, Kota
2. 発表標題 Hezbollah ' s Framing of the Two-front Resistance: A Quantitative Analysis of Hasan Nasrallah ' s Speeches
3. 学会等名 Middle East Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青木健太
2. 発表標題 イランの対外政策と非国家主体 アフガニスタン人の動員を事例に
3. 学会等名 日本中東学会第39回年次大会特別研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青木健太
2. 発表標題 ハイブリッドな国家建設の理念的妥当性 アフガニスタンを事例に
3. 学会等名 国際安全保障学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 英雄が脅威か 計量テキスト分析からみるイラクの世論と街頭行動の拡大
3. 学会等名 比較政治学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yamao Dai
2. 発表標題 Heroes stirring up political unrest: Measuring evaluation of former-militia (PMU) by a list experiment in Iraq イランの対外政策と非国家主体 アフガニスタン人の動員を事例に (4/
3. 学会等名 International Political Science Association, IPSA (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 紛争後社会の選挙動員の効果をはかる イラクにおけるサーベイ実験から
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suechika Kota
2. 発表標題 Political Communication Strategy in Consociational Democracy: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah 's al-Manar
3. 学会等名 OBIC Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suechika Kota
2. 発表標題 Political Communication Strategy of Lebanese Hezbollah under Political Crises: A Quantitative Text Analysis of al-Manar Channel
3. 学会等名 The 25th Mediterranean Studies Association Annual International Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suechika Kota
2. 発表標題 Syrians' Perception of the Post-Conflict Reconstruction under Assad's Authoritarian Rules: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey
3. 学会等名 BRISMES Annual Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suechika Kota
2. 発表標題 Contested Statehood in Post-conflict Authoritarian Syria: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey
3. 学会等名 The IPSA 27th World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suechika Kota
2. 発表標題 Lebanese Hezbollah's Political Communication Strategy in Consociational Democracy, 2016-2020: A Quantitative Text Analysis of Al-Manar
3. 学会等名 The 8th International Forum on Asia and the Middle East (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Masaki Mizobuchi and Yutaka Takaoka	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 16
3. 書名 "How did Muhajiroun become Jihadists? Foreign Fighters and the Geopolitics of the Conflict in Syria", Edited By Jasmine K. Gani, Raymond Hinnebusch, Actors and Dynamics in the Syrian Conflict's Middle Phase Between Contentious Politics, Militarization and Regime Resilience	

1. 著者名 高岡豊	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 227
3. 書名 「テロとの戦い」との闘い-あるいはイスラーム過激派の変貌	

1. 著者名 高岡豊	4. 発行年 2024年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 176
3. 書名 シリア紛争と民兵	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>「イラン第11期国会議員選挙（2020年）データベース」 https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2022/03/islamic_parliament_2020.pdf 「シリアの議会の部族出身議員名簿」（CMEPS-J Series No. 66） https://cmeps-j.net/cmeps-j-reports/cmeps-j_report_66 「シリア地方選挙結果（2022年）：県議会・県庁所在市議会当選者一覧」 https://cmeps-j.net/cmeps-j-reports/cmeps-j_report_67 「イラン第13期大統領選挙（2021年）：関係データベース」 https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2023/03/cmeps-j_report_70.pdf</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	青木 健太 (Kenta Aoki) (10769277)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青山 弘之 (Hiroyuki Aoyama) (60450516)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	末近 浩太 (Suechika Kota) (70434701)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	
研究分担者	山尾 大 (Dai Yamao) (80598706)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関